

142

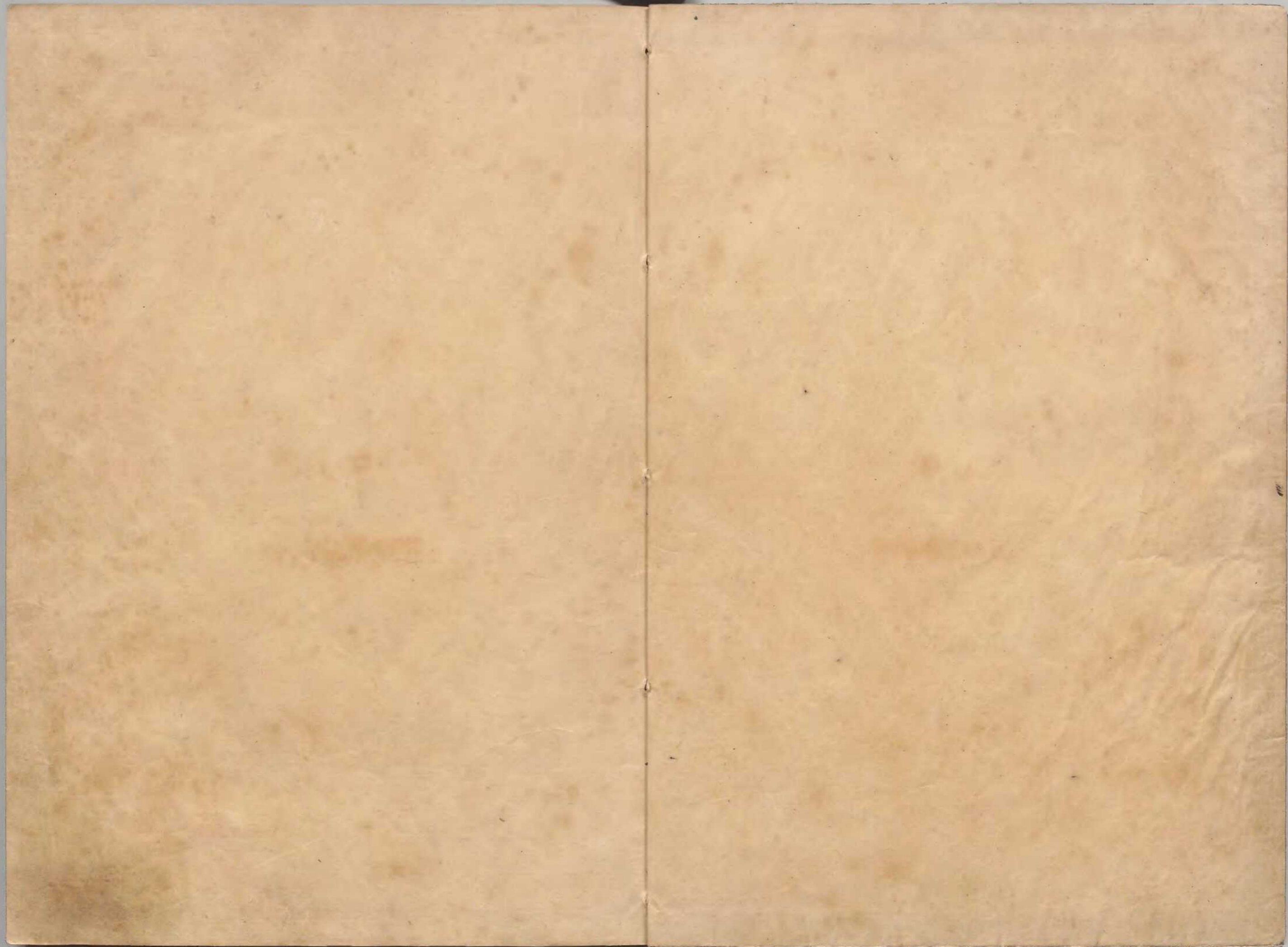
寛永諸家譜

大江氏
四卷之内

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (142)		
函號	特	76	1



裏面記載のない箇所は省略



毛利

寛永法皇系圖傳

平之のしき
大江姓

毛利

平姓を去師次より去師をあら

めく大枝を去りよりま

大枝をあらむよりく大江とす

人皇五十七代

平城天皇

平城天皇
母皇太后藤原の

淺草文庫

乙未年漏贈太政大臣良継公乃じまめ
法天四年

たゞのしんま
高岳親王

高岳親王 平城天皇才一乃法子
母は伊勢継子正宣位下せ人り
春又り一立 河内賢大法師位
弘仁ろ子出家一と名を遍助と
あしむ 弘法大師乃才子と自ら

東乃ちり一修也

貞観三年入唐一と震上と

海沙とまこら一とて陸奥國

一とて一とて一とて一とて一とて

善測

大慈大佛 内道歌

大和伯耆 紀伊 近江等乃守

神祇伯 大舍人 長河佐上

貞親まこと七しち月げつ二に日にち卒す長なが子こ

六十

母はは

肥後守ひごのり 垣上かみがき 巨原こはら 綱つな 佐さ 之の

巨こはら 嶋しま 親しん 王わう

母はは 行ゆき 行ゆき

三さん 子し

何なに 保ほ 親しん 王わう

母はは 行ゆき 長なが 右みぎ 原はら 之の 水みづ 三さん 子し

上かみ 毛け 野の 心こころ 親しん 王わう

母はは 行ゆき 岳たけ 之の 行ゆき

右みぎ 内うち 親しん 王わう

三さん 子し 行ゆき

大原内親王

大原内親王

母杉子 伊勢守文

教内親王

母吉紀氏

本主

彼中書同舟 佐世佐下

公昨乃姓もこまふ乃らふあ〜あ〜
大枝の朝にまこまふ

約平

母吉伊登内親王 在原朝臣の姓もこまふ
在納こと号す 為人頭 大為大補
左京大夫 左馬頭 使別当 左左内
左清の督 左清督 侍從 按察使
長親の 治部 内内 中納言

太宰権帥 正二位 同後 行法 備中守

寛平五年七月十九日 薨 七十九歳

左近将監

左近将監

友子

以 左近将監 左中守 内膳頭

備中守 参議 太宰権帥

大貳 修理大史

延喜十年四月廿日 薨 七十九歳

守平

母 同姓 守平 参議 大膳大史 左中守

業平

相持 兼 左中守 右馬头 左近将監

右中守 左中守 同姓 守平

左中守 守平

元亨二年八月廿一日 薨 六十九歳

伴平

母曰翁後河守 曰姓をくまふ

棟梁

筑後守 石三清佐 長又佐と 翁

昨尚

母曰翁又始子心親日 石中將 長又佐と
高階茂範の養子となりて故より孫高階茂と
号す

滋長

元吉

正又佐下

吾人

母曰中臣氏美流丹波後藤磨近江等此守
清和天皇代侍讀使別当氏部少輔左内記
少内記石清門督式部少輔 東宮學士
文忠議 石大弁 兼勅部右大臣又佐位弁

ろんえきしき
祖父親正貞觀八年十月十八日
とす元亨元年二月十九日
とす元亨元年二月十九日

乙幹 えいけん

中務少輔 遠酒心石少年
長又位下 式乾

清力 せいりき

若狭守 長又位下 式乾

如鏡 じゆめい

丹房守 文 氏

成通 せいつう

本利為

成利 せうり

文

行職 ぎやうしやく

文

忠度 ちゆうと

肥後守 ひごのり

海心史 うみしん

坂入信下 さかひり

作季 しやくせい

佐渡守 さだのり

文 ぶん

清俊 しよん

右清門尉 みぎしよんもんゑい

通友 ちゆうゆう

内膳助 うちぜんすけ

坂入信下 さかひり

盛俊 もりしゆん

武藏守 むさしのり

坂入信下 さかひり

盛賢 もりけん

資成 きじやう

山崎 やまざき

長之 ながの
信下 のぶしも

氏 うぢ

資家 きけ

縫殿 ぬいどの
助 すけ

文 ふみ

師 し
継 つぐ

左 ひだり
右 みぎ
将監 しやうげん

於 お
氏 うぢ

白 しろ
高 たか

師 し
親 ちか

花 はな

師 し
業 ごう

中 なかつ
務 む
患 わづらひ

盛久 りいこ

右若浦尉 うしづうらゑい

通清 ちゆうせい

右若東尉 うしづとうゑい

通賢 ちゆうけん

文 延正位上 ぶん げんせいゐしやう

通成 ちゆうせい

右若末佐 うしづつゑのすけ

延正位下 げんせいゐした

通能 ちゆうのう

治部丞 ちぶのぢやう

玉澗 たまがわ

日御子 ひのみこ
少納言 すくなごん
延正位下 げんせいゐした
兼式 かみしき

綱目

氏姓大補 備後守 別初蓋 乃大奇
文章博全 大肉記 冬後 勘由
長官 高信下 後撰和奇集乃
作志 後江相云や号也

天徳元年十二月廿一日
やー七十一

綱目

大令人頭

綱目

能やま

女子

古今集乃作者

白女

扶友 まけりとも

大膳亮 おほのぞのり

沈明 しんめい

文策 ぶんさく 父 ちち 一 いち 子 こ 孫 まご 孫 まご 孫 まご 孫 まご

清通 しみと

月守 つきもり

坂四下 さかよしも

定經 じやうけい

義徳 ぎとく

正四下 しやうよしも

清定 しみやう

油前 あぶらまへ

長五下 ながいご

茂 しげ

清綱 しみつな

出守 いでもり

通定とんじやう

通定とんじやう

沈しん江かう

位い下げ

通定とんじやう

大だい学がく以い 策さく式しき初はつ大だい捕と 位い下げ

為清ゐしやう

大だい内ない記き 位い下げ 策さく文ぶん

清しやう綱かう

文ぶん

伊國いづくに

掃部頭さうぶとう 坂上佐と文集ぶんしゅう

羽通はつとほ

坂上佐下さかうえさか 文ぶん 文ぶん 文ぶん 文ぶん 文ぶん

家園いえのゑん

之斗助このたけすけ

通園とほのゑん

伊豆守いづのみ 大守だいしゅ 坂上佐さかうえさか 文集ぶんしゅう

京定きやうぢやう

長門守ちやうもんしゅ

京國 みやこ

江右 えう 右大将 みぎのたいしょう 右御侍 みぎのごうじ 侍 うし

乙國 おつくに

上法外 かみのりつぐわい 長上位 ながかみ 上 かみ

盛家 もりか

伊勢守 いせのり 長上位下 ながかみかみ

弁宗 べんそう

法眼 はっぽん

宗國 そうくに

法眼 はっぽん 新右 しんご 今新 いましん 勅撰 ちくせん 侍 うし の 儀 ぎ

園盛 えんせい

山寺 やまてら

園如 えんま

河内守 續後撰 續後撰 造等 乃 傳心

沈系 しんけい

河内守

右邊 乃 依

右馬頭

清胤 せいいん

僧如

河内 乃 傳心

女子

河内

後撰 乃 傳心

通理 つうり

伊豫

伊賀 乃 守

正五位下

為

系理 けいり

河内

守 乃 等

内務

右中

弁

長四位下 文集

清遠

千里

歌人 古今下乃作名 昔於大善

維的

維繁

家澗

深澗

千秋

千右ちうさ

伊豫持考いよのしのかう 式部しよぶ少輔しよぶ 式部持考しよぶのしのかう
よ坂田さかた位上いじやう 坂田さかた新しん右みぎ今いまのの位い上じやう 文ぶん集しゆ
えん延長二年二月二日えんじやうににねんににににち 卒すつ

維的いぢき

右馬みぎうま以も 坂田さかた位上いじやう

仲宣ちゆうせん

大隅おほすみ守まも 坂田さかた位下いじげ 文ぶん

理任りじん

式部しよぶ

少輔しよぶ

少内しよない記き 文ぶん

相為

清玄

藤原守

坂立位下

文

乙賞

子深

今葉

子我等の位

子深

坂立位下

坂立位下

廣經

伊勢守

坂立位下

坂立位下

正言

文

大學

後指造

詞苑

の位

ひ言

文章博士 式部大権 後日位下
詞苑乃他志 弓削乃姓 乃あり
乃らり 乃らり 乃らり 乃らり
乃らり 乃らり 乃らり 乃らり

嘉言

馬守 後張送ら下の地

維神

維時

式部大権 文章博士
東之文字 左京大夫 中納言 後之位
式部大権 右京大夫 中納言 後之位
贈後二位 醍醐 朱雀 村之代の侍
江油之小 号 母 け 峯 理 大 丈 臣 璽

文雄乃女新勅撰の地
海老三子六月七日薨
七十六

重光

左京大夫式部大権 坂内佐一 兼

齊光

左京大夫式部大権

東文字士 兼 左京大夫 正之位
伊勢 左江 按津守乃守 冷泉園
一条之代乃侍讀 文策 兼 兼
兼 以母名有左乃名也乃女
永冠之乃十一月七日薨
少一 五十四

為基

文章卿全 正之位下 按津守

指遠坂指遠詞花亦乃修名 策為

定基

明正徳土 昌書以 坂位下卷河子
指遠 詞花新古今乃修名
寛和二年六月一日 出家 法名

寂照

長保五年八月廿五日入唐
圓通大師 少号 号

成基

在江指撮 近江指津号の守 右清門
指少指 非為 為使

尊基

相為

匡衡

侍從 文章博士 海部少弼 正五位下
東文字子 式部少輔 尾花丹波守
一條之條 二代の侍從 後指送新古今
新撰古今書乃佐之 策使

舉國

文章博士 右五以式部大將 丹波守

初泉乃守 正五位下 後一條院の侍
淡策

林豪

能云

氏部大進 文

女子

以侍從と号すは歌人後指送す下乃

仙之

成衛

大守以

仁治考

文集

能言

平房

治政考

義徳考

中替大捕

戸邊考

東天守の式於大捕同於大捕 冬後

大守 大守御 中納言 大守

侍 後之條 白川 三代之

侍 歌人 後接送 乃仙之

江州 少考

母之 大捕 考親 女 策 入 考

三夏年

天永二子十一月 考

やー七十一

維い人にん

大學だいがく以い肥ひ法のう寺てら 式しき於お大だい揚やう正せい信しん下か
策さく文ぶん苑えん 中ちゆう名な通つう時じ

隆りゆう為ゐ

式しき於お大だい揚やう 後ご四し位ゐと 文ぶん策さく苑えん

通つう周しゆう

文ぶん策さく苑えん

通つう隆りゆう

文ぶん

有ゆう元げん

式しき於お大だい揚やう

文ぶん章しやう特とく士し

策さく

時賢ときけん

文ぶん策さく後ご五ご佐さ上じやう

女子

子こ我が乃の化け志し

盛賢せいけん

文ぶん

信賢しんけん

文ぶん

有賢ゆうけん

維光いこう

式しき於の少すく補ほ 後ご五ご佐さ上じやう 文ぶん 策さく

匡約 きやうやく

女子 こし

子我乃傳者 こがのつたはる

棟房 とうぼう

匡朝 きやうあさ

甲斐持守 かいのぢのり 順徳院乃翁人位下 じゆんとくゐんのおきなゐり

康房 かうぼう

判官代 はんぐわんだい

匡範 きやうはん

大皇右大臣大進 おほみまのうぢのしん 左大臣 ひだりぢのしん
後任下 ごにんげ 文集 ぶんしゆ

周房しゅうぼう

大子以おほこし 文章博士ぶんしょうはくし 式部大輔しきぶおほのたすけ
后四位上ごよにじょう 策苑さくえん

仁房にぼう

文章博士ぶんしょうはくし 策苑さくえん 正四位下せいよにげ

重房じゅうぼう

氏部大輔うじぶおほのたすけ 大内記おほのうちのかき 少内記すくなのちのかき 后三位ごよに 策苑さくえん
式部大輔しきぶおほのたすけ 后三位ごよに 策苑さくえん

舉俊ことう

文ぶん

周仲しゅうちゅう

后三位ごよに 文ぶん

信俊のぶ

大内記おほうち 正五位下ただし 文集ぶんしゅう

維房いさ

大宰おほのさね 文集ぶんしゅう 為なり

家房いへ

文ぶん 維衛いゑ とあしむ

照房てるさ

中務なかつむ 少輔すうぼう 正五位下ただし 文集ぶんしゅう

親光ちか

花守はなもり

親巖ちか

法智ほうち 大内おほうち 東寺とうじ 一長者いちぢやうぢや

城は傍心おし号を 随心院

廣之

大膳方史 江廣元正姓を中原より
建仁の申一 姓をわ〜〜と申す
正治の清下又少は皆厚以中原と
いつら元久年中 大江おしなり申
家乃系圖の〜〜と申す 時清將全廣孝
の男なりと申す とも廣之を公記

少将大は乃雄光の子をより〜 沙治
わ〜〜と申す 姓をわ〜〜と申す
其流を大江なりと
治兼守の廣元園東一 下向建久
年中 執権をうけ〜〜と申す 兼之
の申す〜〜と申す 別當の判
とく〜〜と申す
一説〜〜と申す 文治の〜〜と申す 久一
〜〜と申す 久一〜〜と申す

Handwritten text on a blue strip, oriented vertically. The text is written in cursive and appears to be: "Handwritten text" (top), "— January —" (middle), and "Berlin 1854" (bottom).

和日合致わにひあはせなりししががありありなりなり 建曆二年けんりくに

五月ごごつつるる 連保元年れんぽうげんなりなり ありありととここ

於署判おの署はんせせくりくりありありととここなりなり 大膳おほのぜん

大夫おほのうぢなりなり

仁安二年にんあんに十二月じふにがつ十三日じふさんじつ 建曆以けんりくもりり

伊いとと

嘉應二年かえいに十二月じふにがつ五日ごじつ 檀だん方かた外げ記ぎ

伊いとと

義安元年ぎあんに正月じつげつ十日じふじつ 檀だん方かた外げ記ぎ

同日ごじつ二年に正月じつげつ五日ごじつ 叙じゆ爵しやく日にち月げつ廿にじふ一日いちにち

安藝あゑ檀だん方かた

奇き永えい二に年ねん四月しがつ九日くじつ 檀だん方かた外げ記ぎ上かみりり

叙じゆ方かた外げ記ぎ上かみりりととありありととありあり

伊いととありあり外げ記ぎととありありととありあり

元暦元年げんりくげん九月くげつ十一日じふいちにち 因いん幡ばん守しゆ外げ記ぎ

ととありありととありありととありありととありあり

文治元年ぶんぢげん四月しがつ十九日じふくじゅうにち 位ゐ下げりり

叙じゆとと

同年六月廿九日因幡守を辞して

建久四年四月一日の法持をなす

左衛門大尉こむろのたけむら 何 使乃

宣旨せんじ 何

同年十一月五日將士延尉を辞退して

同七年正月廿一日普厚以て

補せらる

正治三年十二月廿二日大膳大夫

正治三年十二月廿二日大膳大夫

一 何

同二年十一月十九日後守佐上

御

建保二年正月五日正守佐下

同日正月廿七日陰奥守を何

同日申承を何

子孫みな江家の中

園楽一々

准之く源中一

廣元一代なる大友令と号す
嘉禄元年二月十八日率て
や一十三 法名覚の

秀嚴

一因探 偽託 新文別当

女子

伊願寺仲妻

仲能

刑部大輔 能中 尾馬助
長門佐上 能
本三條以親能 子田村と号す

重友

中務権少輔 右近将監 正五位下
能

仲推

右近大守将監

宗教

冬之守

右近

守人

仲英

能く守る

宗英

能く守る 右近大守 宗英 守人

女子

能く

能く守る 右近大守 宗英 守人 能く守る 右近大守 宗英 守人

親^り近^き

大炊^{おほい}助^{すけ}

大炊^{おほい}助^{すけ} 鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

頼^{より}泰^{やす}

常^{ひま}厚^{あつ}以^い

常^{ひま}厚^{あつ}以^い 武^ぶ部^ぶ大^{おほ}炊^い助^{すけ} 鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

親^り時^{とき}

因^い幡^{はた}子^こ

鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

貞^{まこと}親^り

貞^{まこと}親^り 氏^{うぢ}子^こ大^{おほ}炊^い助^{すけ}

鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

女子

大^{おほ}炊^い助^{すけ} 鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

重^{おも}信^{しん}

正^{ただ}史^し位^ゐ下^げ

伊^い賀^が守^{まも}

常^{ひま}厚^{あつ}以^い 鑑^{かた}為^{ため}守^{まも}護^ご

水谷少将 廣元の子少将

主簿

淡路守 筑前守 右衛門少将
使 佐伯 佐伯

清右

大藏大辅 右衛門少将 右衛門少将
佐伯 佐伯 佐伯 佐伯 佐伯 佐伯

系右

右衛門少将 佐伯 佐伯 佐伯

秀右

右衛門少将 佐伯 佐伯

親廣

右衛門少将 武藏 遠江 守

氏部持少輔 爲使正五位下
以名蓮世之の

依房より

尾花持盛 尾花持正 爲使正五位下

依泰より

上田太郎 少号

泰廣より

又太郎

弘安、二月十七日圓列
福乃合我乃とさうら死

盛廣より

孫太郎

泰久より

依時 よとき

尾法寺 おのりょうじ
坂也位下 さかのゝらひ

長廣 ながひろ

流三郎 ながさぶろう

依長 よなが

光依 みつよ

信利 のぶとし
井上 いの上
に に
依 よ

廣次 ひろつぐ

三郎右衛門 さぶろうゑもん

廣宗 ひろむね

依三郎 よさぶろう

宗房 むねふさ

四郎 よしろう

廣時 ひろとき

本工助 ほんこうすけ
法名 ほんな
新 あらた
の の

隆元

仲理亮

本五郎

隆時

仲理亮

政廣

少輔 助右郎

親政

元時

少輔 助右郎

本五郎

重祐

若文別當 隆弁 信正の子

子

元弘

左京亮

上総介

長正 位下

母 右衛門尉 信正 女

廣取 ひろり

小沢 こざわ 仰理亮 もちりのり

親え ちかえ

右河孫之郎 みぎがわのまごのら

乙廣 おのひろ

西日吉 にしひよし 源亮 げんりやう

え政 えまさ

少物 せぶつ 辰石郎 たけいし 田橋 たはし 佐下 さげ
母 はは 村 むら 源 げん 叔 しやく 女 め

懐廣 なつひろ

正千 まさち

米橋 こめはし 修理亮 しゆりのり 文内 ふみうち 少物 せぶつ

弘廣 ひろひろ

時後ときご

と結分つむのむす

時信ときのぶ

式部しきぶ 兼あ 兼あ

家廣いえひろ

備前守びぜんのかみ

政廣まさひろ

岩田いわた

元政もとまさ

備前守びぜんのかみ

友廣ともひろ

備前守びぜんのかみ

海老

海廣

日壹備

後前

粉元

伊鱈

伊鱈

元時

右次

強心忠

氏政

式部少輔

名政

荻袋

酒廣

時

伊鱈

伊鱈

頼廣 よりひろ

政勝 まさかつ

伊藤 いとう

式部少輔 しきぶのせうぶ

時氏 ときうぢ

大藏少輔 おほくらうのせうぶ

左大臣下 さだめがげ 右大臣 みぎだめ

元時 もととき

修理亮 しゆりりやう

元隆 もとたか

左大臣 さだめ

元綱 もとつな

元勝 もとかつ

右大臣 みぎだめ

九郎 くわらう

元依 もとよ

元安 もとやす

七郎 しちらう

七郎 しちらう

知政 ちせい

修理亮 しゆりりやう

元高 もとたか

高次郎 たかじろう

為廣 ためひろ

高木依 たかきより

高木下 たかきした

高重 たかむね

文心少輔 ぶんしんしょうぶ

廣重 ひろむね

大和守 たいわしゅ

知廣 ちひろ

太郎守 たろうしゅ

宗廣 むねひろ

太郎守 たろうしゅ

廣重 ひろむね

廣持 ひろもち

為廣 ひろなる

時廣 ときひろ

左若米尉 左邊尉 長正位下 兼并
入道少将も 園東評定所 兼并 使

泰秀 やすひで

甲斐守 正正位下 兼并 使

昇殿 園東評定所

時秀 ときひで

備前守 兼并 兼并
源乃佐 綱子 園東評定所

宗秀 むねひで

甲斐守 兼并 兼并
正正位下 園東評定所

貞廣

新後述集より下乃伝名歌人

氏を将造 国东評定所 玉原
風雅号乃作者

廣泰

甲斐守 伝五位下

貞秀

岩原以中掾少輔 爲使副
評定所

時千

文内掾大輔 伝五位下

時春

治政掾少輔 伝五位下

泰重 ヤシロウ

同幡守 垣下位下 文策 苑
六波羅評定所

頼重 ヨシシゲ

同幡守 垣下位下 苑 六波羅
評定所 哥人 續指送 下乃
佐若

茂重 モロシゲ

御理亮 丹后守 垣下位下
六波羅評定所 新後撰 下
乃佐若

重廣 シゲノリ

田端 中 守

貞重 サダシゲ

掃部助 侍所 垣下位下

貞光

母は忠成り 女新垣換下
の
佐之 二波新垣定光

大湯の尉 昇殿 若 二波新
評定光

運雅

若又別高律仲 寺

宗元

貞泰

上山海守 田幡守 長又位下

宗衛

田幡守

高廣

大を将監 長又位下

續後拾遺乃作者

貞懷

大藏少輔 佐下

風雅乃作者

廣秀

大膳大夫 佐下

風雅新拾遺乃作者

奉為

仲元

賴元

式部丞

氏賴

氏元

掃部頭

佐下

元久 もとひさ

新編選集乃伝 しんべんせんしゅうのついでん

源心少弼 げんしんのおうすけ

伝乃伝 ついでん

氏廣 うぢひろ

道廣 みちひろ

泰元 やまもと

源理亮 げんりりやう

時元 ときもと

泰廣 やまひろ

太郎 たろう

秀久 ひでひさ

茂時 もとし

太郎 たろう

茂元 もともと

太郎 たろう

宗廣 むねひろ

孫次郎 まごじらう

貞男 まこと

孫二郎 まごじらう

泰千 たいせん

氏将監 うぢしやうかん

氏 うぢ

泰經 たいけい

上山 かみやま

氏 うぢ

泰發 たいはつ

市羽守 いちばすけ

佐之佐下 さのさげ

六波羅御所 ろくはらごしよ

泰継 たいけい

長和丸 ながわまる

頼茂 より茂

おね おね

佐之佐下 さのさげ

頼秀 もちひて

后と将監 このしんかん

后と佐下 このさげ

静瑜 しずゆ

泰朝 たいてう

法下 ほふげ

貞頼 さかた

藤心 ふじしん

藤人 ふじひと

右将監 みぎしんかん

后と佐下 このさげ

長井 ながい

宗元 むねもと

掃部助 さうぶすけ

正廣 まさひろ

心那波 しんなば

政茂 まさしげ

刺部控少将后佐下使 さしべのしんかん

定元 さだもと

成宗 なるむね

藤 ふじ

昇殿 のぼりだん

頼廣 ちひろ

左将監 さのしやうげん

坂田信下 さかたののぶ

時久 ときひさ

三郎

政久 まさひさ

五郎

政頼 まさたか

七郎

宗廣 むねひろ

式部 しきぶ

上法外 かみのりょうげ

坂田信下 さかたののぶ

頼久 たかひさ

義久 よしか

五郎

宗茂 むねしげ

頼茂

高直

深田郎

守郎

宗元

深田郎

季光

色利守郎 左と將監 丹藤伊
俊也 佐下 色利入 乃 少 号 氏

法名あり 開東洋定丸

経光

右と将監 俊也 佐下

廣光

岩波 岩波村 俊也 佐下 藤 屋

圓道

阿圓 保 寺 隆 并 傍 心 乃 丹 子

乙通

信部

信下

房親

守

信下

泰久

茂

昇殿

竹雄

大印記

信又信下

女子

母大信竹健公乃妻

竹親公乃母

元親

茂

元貞

修理亮

時亮

亮

左衛門

之奉

守印

時親

時親 亮 六波羅御定所 法皇御
建武二年五月廿一日

丹波國長田乃孫の地以職と成る
るのかり 京に宅地二ヶ所あり
同二年六月晦日 山門合戦あり
乃る予 孫充人 なるり
京小あり 蓋なき 故に 越後
より 入 藝 師
よ 下 子 刻 在 京 乃 料 也
御 山 田 村 京 の 宅 地 二 ヶ 所 一 所 是
小 乃 小 浜 堀 川 一 所 是 小 乃 小 浜 町

元行^のありし^{なり}由^のい^{なり}平^{なり}禰^{なり}下^{なり}
 依^{なり}越^{なり}後^{なり}國^{なり}依^{なり}橋^{なり}乃^{なり}后^{なり}南^{なり}条^{なり}比^{なり}以^{なり}織^{なり}
 女^{なり}藝^{なり}者^{なり}田^{なり}乃^{なり}后^{なり}の^{なり}地^{なり}以^{なり}織^{なり}河^{なり}内^{なり}國^{なり}加^{なり}賀^{なり}
 田^{なり}乃^{なり}比^{なり}以^{なり}織^{なり}比^{なり}亦^{なり}之^{なり}國^{なり}亦^{なり}有^{なり}る^{なり}依^{なり}橋^{なり}
 南^{なり}条^{なり}者^{なり}二^{なり}子^{なり}費^{なり}者^{なり}田^{なり}乃^{なり}后^{なり}者^{なり}千^{なり}費^{なり}
 加^{なり}賀^{なり}田^{なり}乃^{なり}比^{なり}以^{なり}織^{なり}者^{なり}二^{なり}百^{なり}費^{なり}乃^{なり}地^{なり}予^{なり}禰^{なり}り^{なり}時^{なり}
 名^{なり}田^{なり}一^{なり}下^{なり}向^{なり}也^{なり}

基親

后^{なり}を^{なり}將^{なり}監^{なり} 本^{なり}札^{なり} 籍^{なり}

時元

丹^{なり}後^{なり}者^{なり} 后^{なり}也^{なり} 佐^{なり}下^{なり} 籍^{なり}

経親

后^{なり}を^{なり}將^{なり}監^{なり} 后^{なり}也^{なり} 佐^{なり}人^{なり}
 后^{なり}也^{なり} 佐^{なり}下^{なり} 乃^{なり}り^{なり}小^{なり}甲^{なり}佐^{なり}也^{なり}と^{なり}
 号^{なり}を^{なり}以^{なり}て^{なり}一^{なり}下^{なり}乃^{なり}り^{なり}泰^{なり}秋^{なり}
 續^{なり}子^{なり}我^{なり}集^{なり}新^{なり}指^{なり}遺^{なり}等^{なり}の^{なり}也^{なり}と^{なり}

法名寂しやく

重經ちゆうけい

三郎さんらう 掃部さうぶ

基澤きざわ

經けい

右みぎ将監しやうかん 左ひだり兵衛べいゑ

親おや 忠ちゆう

伯耆はくしよ 藤ふじ 左ひだり兵衛べいゑ 下しも

親おや 宗むね

六郎むつらう

右みぎ 散さん

傷きず 心こころ

貞親さだちか

右みぎ将監しやうかん 左ひだり兵衛べいゑ 下しも 法名ほふな 朗らう 宗むね

親元

早即

廣

親

光

親

親

隆興

後位下

親衛と改

依中守と号す

法名室

某

近江

某

文内少輔

妙雲

傍

家親

昨親

元春とわ〜〜
 佐々木 佐下
 貞治五年 寶蓮院義治乃
 父室茶な〜〜
 運時忠衛 為父より

運時

独将軍方となり〜
 母花い〜〜
 母花い〜〜
 母花い〜〜

忠衛

始ハ忠廣 越後守 為父より
 大膳左衛門 佐下
 大膳左衛門 佐下

廣房 ひろふら

小字之龜丸 こがらひのきつね

中務大輔 なかつぶさのちやうほ

治部大輔 ちよぶのちやうほ

元房 もとふら

孫心少輔 まごころのせうすけ

美廣 みひろ

廣内とあゝこむ ひろうちとあゝこむ

治部少輔 ちよぶのせうすけ

藤原やゝとせ ふじわらのやゝとせ

忠廣 ちゆうひろ

左馬助 ひだりまのすけ

中馬やゝとせ なかつまのやゝとせ

廣世 ひろよ

大を将監 おほをのしやうかん

藤原やゝとせ ふじわらのやゝとせ

元測 もとさか

刑部少輔 けいぶのせうすけ

小山とせ こやまのせ

弘親 ひろのちか

考ひらひら於よ少の楠ま

廣弘 ひろのひろ

少楠

三郎

廣國 ひろのくに

考いづらの隆の公り

弘衡 ひろのひら

少楠

三郎

考いづらの仙の桂り公り

親心 ちかこころ

文くまの口の少楠

廣能 ひろのちか

秀ひら之の久き

少楠三郎

廣八 ひろのやち

女子

冬藏有尔乃非經り妻

女子

大外記中原乃呼業り妻

史成

左を將監 左邊り射 刑部少輔

長田佐下 海東判友少号氏
續古今 玉糸為乃作者

史成

義流号 堤又位上

廣茂

同暢号

新後撰續子載續後撰

元もと

新あらた子こ裁ざい号ごう乃の修しゆ心しん

修しゆ理り亮りやう

廣ひろ房ぼう

厚こう子こ將しょう監かん

刑けい部ぶ少しょう輔ぼう

續つづ子こ裁ざい

續つづ子こ指しゆ送そう

新あらた子こ裁ざい

新あらた指しゆ送そう号ごうの

修しゆ心しん

時とき廣ひろ

二ふた郎らう

成なり茂も

時とき

若わか

明あき進しん院いん乃の若わか人ひと

秀ひで

太た郎らう

惟史 みづき

判友代 はんゆうだい

女子

秋重 あきしげ

貞重 まことしげ

史仲 しちゆう

右吉 みぎきち

史系 しけい

尊俊 そんしげ

坂守 さかまもり 長史 ながし 下 しも 六波羅 ろくはら 淨室 じようしつ 所 ところ

寺 てら 大僧都 だいそうだう

重清 しげきよ

水谷 みづたに 伊賀守 いげまもり 彰子 あきこ 正史 ただし 位下 いげ

女子

贈内大臣 おくりうちだいじん 義朝 よしの 女 むすめ 事 こと

女子

控大納言 かうだいなごん 右原 みぎはら 乃 なり 美因 みいん 国 くに 事 こと

平物 ひらもの

筑前守 つくののり

淡路守 のろりのり

越中守 えちのり

後白河守 ごしろのり

清有 しみゆ

越中守 えちのり

系有 よひゆ

左衛門尉 さゑもんのかみ

後白河守 ごしろのり

秀有 ひでゆ

越中守 えちのり

光房 みつぼう

越中守 えちのり

右馬次 みぎうまじ

照元 てるもと

越中守 えちのり

治政少輔 ちせいしょうぶ

善光院義教ゆきこういんぎぎょう一いつつふ
永享えいきやう中なかつ九く列りゅう一いつ一いつとひくとひく花はなと
法名ほふな津つ濟せい

豊元とよもと

少輔せうぶ左さ郎らう一いつ 法ほふ政せい少せう輔ぶ 熊くま房ぼうと号ごうと
小字せうじハハ松まつ吉きちのの丸まる
善光院ゆきこういん義教ぎぎょう一いつ一いつとひくとひく

弘元ひろもと

備中守びちゆうしゅ 法ほふ政せい少せう輔ぶ 少せう輔ぶ左さ郎らう

具元ぐもと

少輔せうぶ左さ郎らう 小字せうじハハ幸さちと丸まる

某

三さんつつのの包ほう名なハハ幸さち和わ丸まると利りの家け智ちと

しぐさしんしん九歳ありて
うたへりしるるく叔父元就あり
りくくか督さつ

元就

隆興寺 右馬頭
征夷將軍義輝のやうこ元就大徳
大支子 仰ぐ 且菊桐乃紋をま
因て後帝の院の即位料をそのふ

義輝まゝ錦乃並紫をそまらる
相傳乃るやあり元就安藤りある
とこ因防山の城主大内左京大夫
義隆の弟光隆尾花守晴賢義隆を
つらしとく乃國と行しそは乃
國主大友氏の子ハ郎義長を迎て
主として大内ハ郎と号して晴賢
弟賢一と名を命まとのあつて
國乃のそとよりそ元就ひ

義澄一 原とありしより全善
が叛逆のゆゑゆゑ義澄はあふ
つゝと誰ぞんゆゑとて遂に
ひく全善少いあひをうするま
毎度え就ぐ子長川え春小早川
澄京先陣少いなりとて軍師あり
弘治え子十一月朔日全善告すひさ
ひく安藝の嚴治文尾の城とせむ
とて一 澄京城ありあつとてせむ

そとあふと一とひくうのつえ就
とて一 澄ええ春風ぬりまうとれ
あつとて一と全善の軍とせむ
軍中一と一と一と一と一と一と一と
討澄京城とあつとて一と一と一と
全善と一と一と一と一と一と一と一と
全善のあつとて一と一と一と一と一と
みと一と一と一と一と一と一と一と
一と一と一と一と一と一と一と一と

大い一敗少く元就時山より入て
鮮黨と求十一日入りつてりてこと

くくくくくく

同二年三月乃あひびぐ元就陶氏

鮮黨と討く長門周防より入る

大内、即義長を長門長府長門

少く入り言——内友下野も隆世ハ

長府勝山より——て自言——海島島

を防別備田島山より入り言——

江良強ふ也伊香頼石清の太史を防別

須く懸乃謀少く入り言とあり

とひく元就并藤原防長門とあり

永祿五年尾子氏と討く出雲國

備田乃謀なりこむ尾子母也とあり

ゆてひり——同十一年よこ成を

せあおと——尾子氏を生捕國懐伯者

乃入強後乃國とありつてくろ

のらえ就備中備後乃地とあり

承應二年六月十日
 長門守中納言藤原仲光
 承應二年六月十日
 長門守中納言藤原仲光
 承應二年六月十日
 長門守中納言藤原仲光

え 綱

少 幡 乃 郎

就 勝

上 法 舟

え 範

岩 形 丞

友 成 丞

隆之

少輔太郎

酒中

之就

瑞子

ついでにやうも家督とらふ

永禄五年八月甲子卒之

女子

亮戸隆家

之妻

長川少輔

治部

瑞子

天正十一年十一月十五日卒之

法名海壽

之長

之氏

繁澤

久田少輔

之系

花守

某

忠之郎

某

七之郎

女子

益田玄女^り妻

廣家^り

源人

元長^り早世^り乃^り接人^り下^り吾川^り乃^り家督^り
継

廣正

又八郎

義清^り

執頼

秋田

石京道

隆京

小早川 又四郎 尾邊の佐

中納言 任 筑前國と云々

長二つ六月十一日 率 一 六十三 法衣奉

女子

と原が妻

え秋

少輔十郎 尾子 忠と云々

え清

日郎 治部少輔 伊藤

秀之

甲斐守 宰相 右京大夫

輝之 実子なりとあり
秀之 実子とあり乃ら輝之
実子 秀之とあり乃ら輝之
と秀之 實子とあり

元康

少輔 七郎 大膳大夫

元道

紀伊守

元政

少輔 七郎

元俱

之膳心 山城守

元隨 もとすい

常口 とこぐち

石見守 いみもり

某

又八郎

元任 もとにん

志摩守 しものもり

某

元総 もとそう

山三郎

常

秀色 ひでしき 少 すく あ あ じ じ

元信 もとのぶ

石馬 いしうま 以 も

伊賀守 いげもり

某

石門 いしもん

某

大子

輝久

少輔太郎 石馬以 石清門督
丹藝 月防 長門 石見 出雲 浪波
彼故よりい海軍中軍國伯者中國を
引く征夷將軍義輝諱の字并

女子

某

長見廣利の妻

酒齋

一 厚敷乃号をすまふ子秀右のよこ
申納云一任一 敬之清美一
准之
寛永二〇四月廿七日一 薨之
一 七十二江名宗瑞

長門守 まのり ろめ乃みはあせ高

孝之七回年

大権現柳原式部大権原政と清使也 まこと

とくは務をそまふら此より歳

同年十月十一日 侍下 しやく 侍下 しやく

侍下 しやく 侍下 しやく

同日十二月八日 侍下 しやく 侍下 しやく

同日奉十月十日

大権現長門月防西園寺のつと輝之也 まこと

より秀就 ひでゆき 侍下 しやく 侍下 しやく

西園寺 さいえんじ 侍下 しやく 侍下 しやく

清書并升体告於少輔丞政副收也 しやく

敬白起請又前書 しやく

一 月防長門西園進退 しやく

一 清父子方命矣依 しやく

一 虚説 しやく

右條々若此仍若
梵天帝親曰大天主惣而日本國中
六十余別大小神祇別之伊豆若根
西而推現之為大時神八幡大菩薩
天海大自在天神可蒙淨觀之也
仍起請如件

長史之

十月十日

家康

安藏中納之
也利藤七島友

敬白起請又前書之受

一 今及被對釋之父子因府法抄詞

並法判被進作一問聊相違有問

為作是付因府業本拙者身申作

事

一 中納之殿書付之儀被仰作進因府

一 此儀被對曰府之法別儀之表
 裏可對此之表
 右條之於儀者
 梵天帝親曰大天王惣而日本國中
 六十余別大小神祇別之伊豆箱根
 及所控現之海大明神、權大尊、薩
 天海大自在天神可蒙法對者也
 仍起信如件

延文長八年

井伊出羽少將

十月十二日

丞政

輝又様

已利者七郎様

同十二年抄年氏とそまよ

同十五子 鈞命とつて成あり申由也

秀康の乃女とつてつとふらつらこれ

大権現乃湯孫女なる

寛永之六月十九日いんかりせき近湯少将いんかに

て毎度山崎とそありし海軍乃いんか

数多乃少将いんかに

女子

石川義徳いしかわよしのりの妻

乾澄くわんじやう

日向ひなた

子世徳丸こせとくまる

母と越前中納言秀康ひがしの女むすめ

女子

母ははは越前少将えちぜんせうしやう長ながの妻つま

家乃段一文字いん之の星せい

物もの—へ—く菊きく桐とう乃の級くわいとと之の統とう
予よままふ

